

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B、数学A・B、理科、生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	144人	国語B	143人
② 数学A	141人	数学B	141人
③ 理科	143人		

5 留意事項

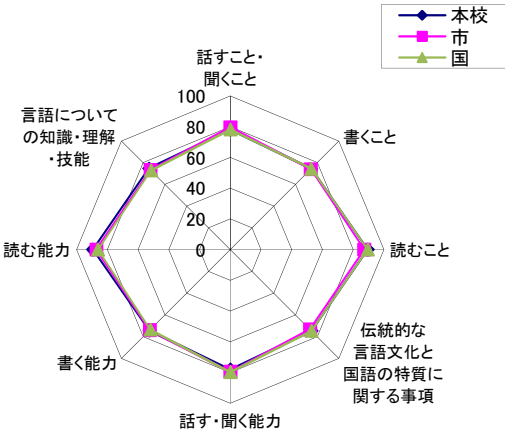
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

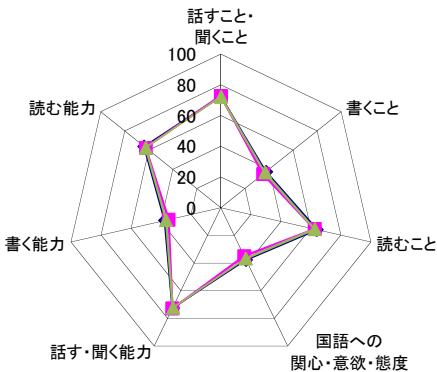
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.1	79.5	78.1
	書くこと	74.4	74.1	74.4
	読むこと	89.4	87.2	89.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	73.4	74.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	78.1	79.5	79.7
	書く能力	74.4	74.1	73.6
	読む能力	89.4	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	74.7	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.5	72.8	72.2
	書くこと	37.5	35.0	36.7
	読むこと	63.9	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.5	35.0	36.7
	話す・聞く能力	72.5	72.8	72.2
	書く能力	37.5	35.0	36.7
	読む能力	63.9	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「読書は好きですか」の質問に対する肯定的回答はいずれも9割を超えており、良好な状況と言える。
●「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」の質問に対して「解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった」や「書く問題は全く解答しなかった」のポイントが県や全国と比較してやや高かった。

★指導の工夫と改善

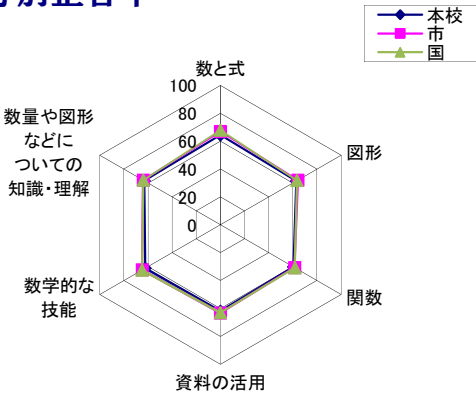
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●【国語A】において、市の平均と比較して1.4ポイント低い。「聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す」や「必要に応じて質問しながら聞き取る」の項目で正答率が低い。 ●【国語B】においては、市の平均と比較して0.3ポイント低い。「状況に応じて、資料を活用して話す」や「資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く」の項目で正答率が低い。	・スピーチの発表等を通してより適切なことばを用いて正確に伝える学習を「書くこと」と関連させて文章構成を理解させながら行う。また、聞きとりテスト等を通して要点・主旨を理解させながら、その技術を話す力に活用する学習を行っていく。
書くこと	○【国語A】において、市の平均と比較して0.3ポイント高い。「伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える」や「相手に効果的に伝わるように書く」の項目の正答率が高い。 ○【国語B】においては、市の平均と比較して2.5ポイント高いが、無回答率も県や全国と比較しても高くなっている。	・字数に応じた段落構成で文章を書かせ、結論を短く述べることや、理由や説明を書かせる条件を明確にして、単元の感想、批評文、登場人物の心情等を書かせる表現活動を今後も多く取り入れる。また、自分のことばを大切に、生活作文から創作まで自由に楽しく書く学習に取り組ませる。
読むこと	○【国語A】において、市の平均と比較して2.2ポイント高い。「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」の項目の正答率が高い。 ●「文章から適切な情報を得て、考えをまとめる」の項目での正答率は低い。 ○【国語B】においては、1.3ポイント高い。特に「目的に応じて文章を要約する」や「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」の項目での正答率が高い。	・文章の構成をとらえた上で段落の要点を短いことばでまとめる学習や要旨を読みとる学習を、今後も継続して指導していく。 ・読書活動と結びつけながら、登場人物の気持ちを丁寧に確認する学習を継続して指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○【国語A】において、市の平均と比較して1.3ポイント高い。「表現の技法について理解する」の正答率は県や全国と比較してもかなり高くなっている。	・散文・韻文の種類ごとに、各種の表現技法について例示しながら確実な定着が図れるよう今後も継続して指導していく。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

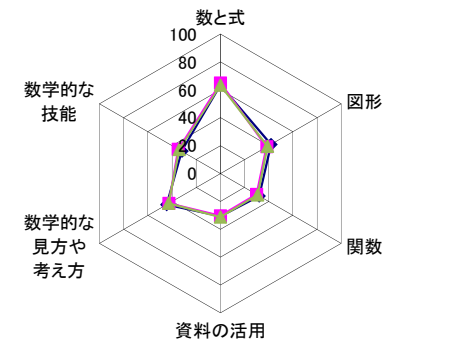
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	64.3	67.0	67.7
	図形	62.8	64.1	63.4
	関数	60.5	61.4	61.7
	資料の活用	61.9	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	62.3	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	63.1	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.3	64.8	63.2
	図形	41.8	38.3	39.0
	関数	32.1	29.9	30.7
	資料の活用	30.5	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	44.5	42.6	42.8
	数学的な技能	31.9	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○「数学の勉強は大切だと思いますか」(80%超)「数学ができるようになりたいと思いますか」(70%超)「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」(70%超)「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」(65%超)「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」(約70%)「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」(約90%)において肯定的な解答があり、意識の高さが感じられる。
●「数学の勉強は好きですか」(46%)「数学の授業の内容はよく分かりますか」(58%)などの質問項目に対する肯定的割合が少なめである。意識の高さに比べ具体的な取り組みを必要とする。

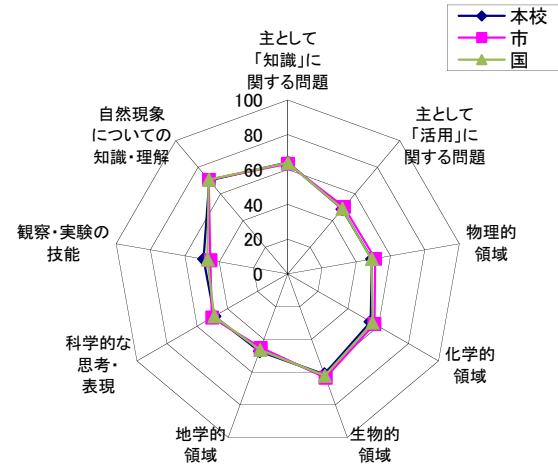
分類・区分		本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	数と式	・数学A【主として知識】 ●市の正答率を2.7ポイント下回っている。 ●文字を使った式や比にかかわる問いに正答率が低い。 ●数量の関係を文字式に表したり、等式の変形の中で、誤答よりも無解答の割合が多い。 ・数学B【主として活用】 ●市の正答率を1.5ポイント下回っている。 ●事柄が成り立つ理由を説明することに無解答の割合が多い。	・板書の中で、大切なところや、式の流れ等を確認できるよう、色分けしたりして分かりやすく書く。板書をノートに写し、例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・方程式の解法で、等式の性質を再確認させ、適切な処理ができるようにする。また、計算で得られた結果について、たしかめをする習慣化を図る。 ・文章問題でも、必要な情報を的確に捉えられるよう、記号等を使って分別したり、考え方の筋道を立てて取り組むように指導する。
	図形	・数学A【主として知識】 ●市の正答率を1.3ポイント下回っている。 ●証明の根拠となる、三角形の合同条件の無解答の割合が多い。 ○空間図形や平面図形における理解度は高い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を3.5ポイント上回っている。 ○発展的に考えたり、条件に応じて的確に捉えることができる。 ●問題解決の方法を説明することに無解答の割合が多い。	・視覚的にとらえやすくするために、図形の中で印をつけたりして区別し、考え易く工夫した板書をする。板書をノートに写し、例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・条件に合わせて図形をかくことを習慣づけて、図形から得られる情報を的確に読み取り、問題解決の糸口を見いだせるようにする。 ・問題に対して、筋道を立てて説明することをパターン化して取り組めるよう繰り返し指導する。 ・ペアで意見を交換したり、生徒が自分の考えを説明する機会を増やす。
関数	関数	・数学A【主として知識】 ●市の正答率を0.9ポイント下回っている。 ○式・表・グラフから関数をとらえることができる。 ●変域についての無解答の割合が多い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を2.2ポイント上回っている。 ●与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに無解答の割合が高い。	・ともなって変わるものの、変化の様子を表やグラフの中でとらえられるように色分けしたり、印をして考え易く板書をする。板書をノートに写し、例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・式・表・グラフの関係を結びつけて考えられるようしたり、視覚的にとらえられるよう繰り返し指導する。 ・自分の考えをもち、ペアで意見を交換したり説明する機会を増やす。

資料の活用	・数学A【主として知識】 ●市の正答率を1.4ポイント下回っている。 ●代表値や度数分布表についての無解答の割合が多い。 ○起こりうる場合を整理したり、確率の意味を理解している。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を0.1ポイント上回っている。 ●与えられて情報から必要な情報を選択し、的確に処理したり、説明することに無解答の割合が多い。	・度数分布表やヒストグラム等、視覚的にとらえる場面で、資料の様子が分かるようにする。例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・度数分布表や相対度数・代表値など用語の意味を正しく理解させ、具体的な場面での確に処理できるようにしたい。
-------	---	--

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	64.0	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	48.7	50.3	48.8
分野等	物理的領域	49.2	50.9	48.9
	化学的領域	54.9	57.5	56.2
	生物的領域	61.4	63.4	62.2
	地学的領域	47.2	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	48.7	50.3	48.8
	観察・実験の技能	49.0	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	70.1	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○観察や実験に対して、最後の考察まで前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。また、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問では、肯定する回答が県平均を7.3ポイント上回っている。
●「理科の授業の内容はよくわかりますか」や「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」などの質問に対して肯定する回答がそれぞれ県平均よりも9.2ポイント、3.4ポイント下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	●領域全体としては市の平均を1.7ポイント下回っている。特に、凸レンズによってできる像に関する問題では、10ポイント以上下回っている。 ○電磁誘導に関する問題では2.8ポイント、音の高さに関する問題では5.1ポイント市の平均を上回っている。	・身の回りの現象に関する実験結果を分析し、規則性を見いだす方法について、実験を通して身に付けられるよう指導していく。
化学的領域	●領域全体としては市の平均を2.6ポイント下回っている。特に、気体の性質をもとに説明する問題では、10ポイント以上市の平均を下回っている。 ○実験結果をもとに物質を特定する問題では、市の平均を4.9ポイント上回っている。	・物質の性質を適切に把握するとともに、その性質をもとに、実験結果を説明できるような、科学的な思考・表現を身に付けられるようにするため、実験の考察を各自で文章表現できるように指導していく。
生物的領域	●領域全体としては市の平均を2.0ポイント下回っている。特に、適切な考察を記述する問題では、5.3ポイント市の平均を下回っている。	・生物の分野についても知識・理解だけでなく、科学的な考察が重要であること等の指導を充実させて学習に取り組むようにしていく。
地学的領域	○領域全体としては市の平均を2.0ポイント上回っている。特に、天気図の読みとりに関する問題では10ポイント以上市の平均を上回っている。 ●気圧の変化についてのモデル実験を計画する問題では市の平均を6.3ポイント下回っている。	・地学的領域における基本的な知識については身につけていると考えられるので、それらの知識をもとに現象が起こる理由や原因について説明することや、実験方法について自ら計画すること等について身に付けられるように、自分たちで実験計画を考える授業や生徒どうして話し合いをしたり説明したりする授業を多く取り入れる。

宇都宮市立一条中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

〈学校や家庭での学習について〉

○「家で、計画を立てて勉強をしていますか」という問いに対する本校の肯定割合は、全国平均を8.1ポイント上回っている。また、「学校の授業時間以外に、一日当たりどれくらいの時間勉強しますか」という問いに「2時間以上」と答えた割合は、平日・休日それぞれ全国平均を5.9ポイント・12.5ポイント上回っている。学校での家庭学習の充実を目指した取組が軌道に乗り、自主的に勉強ができるようになってきたことがうかがえる。さらに家庭学習の充実を通して学力向上を目指していきたい。

○「学校の授業時間以外に、一日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という問いに「30分以上」と答えた割合は、全国平均を9.7ポイント上回っている。朝の読書の時間が充実し、生徒の読書への関心が高まってきていると思われる。

●「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」という問いに対する肯定回答の割合は、全国平均を7.4ポイント下回っている。学校生活の中で自分の考えを発表する場を多く設けて、友だちの前で話すことに慣れさせることが必要である。各教科の活動の中に、意識的に発表の場面を設定していきたい。

〈毎日の生活について〉

○「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対する本校の肯定割合は、全国平均を9ポイント上回り、学校の授業・家庭での生活などを通して、自己肯定感が醸成されてきたことがうかがえる。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という問いに対する肯定割合は、全国平均を15ポイント上回っている。ボランティア活動などで地域の行事に参加する機会が多く、地域や社会への関心が高まってきていることがわかる。

○新聞を「週に1回以上読んでいる」という割合は、全国平均を4.2ポイント上回っている。学校でのNIEの実践によって、社会のニュースへの関心が高まってきている。さらにこの実践を継続し、思考力・判断力・表現力を高め言語活動を充実させていきたい。

●「普段一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯電話のゲーム・スマートフォンのゲームを含む)をしますか」という問いに、「2時間以上」と答えた生徒の割合は、全国平均を6.1ポイント上回っている。また一方で、携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをする時間は全国平均を下回っている。携帯電話・スマートフォンの正しい使い方を徹底させ、時間の有効な使い方を考えさせる授業を設定していきたい。